

# 第 10 回 木津川上流河川環境研究会 議 事 要 旨

## 【開催概要】

開催日時：平成 18 年 11 月 5 日（日） 14：00～17：00

開催場所：京都リサーチパーク 4 号館 2F 会議室「ルーム 1」

## 【出席者】

委員：委員 7 名

事務局：木津川上流河川事務所（3 名）

水資源機構（3 名）

河川環境管理財団（3 名）

オブザーバー等傍聴者：近畿地方整備局（1 名）、木津川上流河川事務所（8 名）、水資源機構（18 名）、水資源協会（3 名）

## 【議事次第】

1. 開 会
2. 前回議事の確認
3. 議 事
  - (1) 本年度の検討方針とスケジュールについて
  - (2) 青蓮寺ダム / 高山ダムのフォローアップについて
  - (3) 報告事項
    - 1) 水環境管理ワークショップの報告
    - 2) 植物の貴重種<sup>(1)</sup>の移植モニタリング経過報告
    - 3) 平成 18 年度 工事実施箇所
    - 4) 平成 18 年度 フラッシュ放流について（中間報告）
    - 5) 平成 18 年度 土砂供給について（中間報告）
    - 6) その他
4. その他
5. 閉 会

## 【議事項目ごとの審議結果】

1. 開 会
2. 前回議事の確認  
第 9 回議事内容について、全委員から了承を得た。
3. 議 事
  3. 1 本年度の検討方針とスケジュールについて
    - (1) 事務局からの説明  
事務局から行われた本項の説明内容は以下のとおりである。
      - 1) 検討方針  
本年度の予定課題から、テーマを絞り込んで検討する。
        - a. 各WG を 1 ～ 2 回実施。

<sup>(1)</sup> 対象植物は 1 種類、改訂・近畿地方の保護上重要な植物 - レッドデータブック近畿 2001 - において絶滅危惧種 C

- b. 河川環境研究会 2 回を予定。  
 第 10 回河川環境研究会 本年度の調査・検討方針（案）を確認  
 第 11 回河川環境研究会 各WGの検討内容の報告と審議
- 2) 堰魚道WGの検討内容について
  - a. 河川縦断方向の連続性回復に関する調査・検討  
 河川環境と魚類等の生息実態の変遷についての調査・検討  
 遡上アユ調査方法および同定方法（海産、湖産、養殖）の検討  
 アユの捕獲調査
  - b. 住民連携の取り組み検討  
 住民連携方法の検討  
 ワークショップの開催（1～2回）  
 対象者：木津川上流管内の一般住民  
 内 容：河川環境の現状の把握、現地見学会 等
- 3) 河道内樹林管理WGの検討内容について
  - a. 河道内樹林管理計画策定のための基礎調査  
 H.17 年度服部川掘削調査（採取試料の土質試験）のまとめ  
 木津川筋の追加調査の実施  
 植生・竹林繁茂と土砂堆積に係るメカニズムに関する取りまとめ
- 4) 河川ダム水量・水質WGの検討内容について
  - a. 木津川上流の水質改善に向けての住民連携の検討  
 水質改善に向けた住民参加方法の検討及び実施  
 木津川上流の水質管理のあり方についての検討
  - b. 木津川上流域の既設ダムにおける水質改善策の検討＜室生ダム＞  
 室生ダムの水質改善策（底質 D0 低下、アオコ）について、実施に向けての検討
- 5) 河川環境研究会の検討内容について
  - a. 青蓮寺ダム・高山ダムのフォローアップについて
  - b. 各WGの検討経過の報告と議論
  - c. その他  
 フラッシュ放流および土砂補給試験の報告  
 河川事務所における平成 18 年度予定工事概要について

(2) 討議内容  
 上記の内容について、基本的に了承を得た。

### 3.2 青蓮寺ダム / 高山ダムのフォローアップについて

#### (1) 事務局からの説明

事務局から行われた本項の説明内容は以下のとおりである。

- a. 青蓮寺ダム及び高山ダムのフォローアップ 1) 事業概要、2) 洪水調節、3) 利水補給、4) 堆砂、5) 水質、6) 生物 および 7) 水源地域動態

#### (2) 討議内容

##### 1) 事業概要

ダム地点の降水量・流入量について、8月の降水量と流入量が逆転している理由について確認が必要。

##### 2) 洪水調節

##### 3) 利水補給

- 4) 堆砂
- a. 土砂堆積が計画堆砂量の35%であるから問題はないという記述に根拠を補足すべきである。
  - b. 貯水池末端での流入河川の河床変動について注意する必要がある。
- 5) 水質
- a. 青蓮寺ダムにおいて、放流水温は流入水温より9~2月で高い傾向にあるが、普段は低いと思われる。普段、問題が起きていない理由を説明してほしい。  
表層取水設備があるため、流入と放流の温度差が少ない状態で放流しているためであると考えている。
  - b. 分画フェンスを設置後、夏期を含めて3年間アオコが発生しないことについて、曝気設備はないにもかかわらず、高山ダムと同様の現象が現れている理由を説明してほしい。  
分画フェンスは、淡水赤潮の抑制のために設置したものである。アオコの被害については近年見られない状況であり、流入負荷量が高山ダムよりも少ないことが、アオコの発生に至っていない要因であると考えている。
  - c. DOと水温の評価において、ダム湖の水深が深いため、利水面では特に問題が出ていない現状ではあるが、ダム湖の健全化を図る上では、DOの低下については今後対策を検討していく必要がある。
  - d. 水質改善に向けての課題を抽出するために、木津川上流域全体を対象に、水系系統・流域ブロック別に水量と水質の変化を時系列に整理した模式図などを作成すべきである。
- 6) 生物
- a. 鳥類について  
カワウについては、近年、問題視されており、記述には注意すべきである。また、カワウやサギの問題には、魚の捕食圧、糞害等があり、これらについて配慮すべきである。  
カモメという記述について、正式名称を確認すること。
  - b. 植物について  
記述の中で、群落、植生などの表現が混同しており、用語の使い方を整理すべきである。  
植物の記述名称について、科種のレベルが統一されていないため、記述においては注意すべきである。  
ダム建設に伴うダム湖内の水位上昇で、土壌の水分条件が変化し、植物相が多様になることも考えられる。建設に伴う環境変化の要因になり得ることから、継続的な定点調査を行うことが望ましい。
  - c. 昆虫について  
調査方法に差があるとしても、5年間で50も種数が減ることは考えづらいことであり、周辺整備との関係など、考察の中で検討した方がよい。  
ホタルなど象徴的なものが、発見できなかったことは、調査方法の問題点などが挙げられ、それらの解説を加える方がよい。
  - d. 底生動物について  
底生動物を評価する上では、水質の変化と併せて底質の状態も把握する必要があり、経年的な写真撮影など簡易な方法で対応した方がよい。  
ダムフォローアップのマニュアルには、下流の河床変動について触れられていないが、生態調査と併せて河床変動と河床材料について調査する必要があり、少なくともダム直下の底生動物調査と併せて実施する方がよい。
  - e. 生物を評価する上で、ダム湖での生物の多様性が低いことはダム湖の特性であると思われる。ダム湖の中だけで評価するのではなく、上下流の状況も併せて評価することで生物多様性に影響が少ないという考察もあり得ることから、今後、調査範囲と評価方法についても工夫する方がよい。

- 7) 水源地域動態
  - 8) その他（全体を通じて）
    - a. 評価項目によっては、「下流域」と「下流河川」との記述があり、対象範囲の違いを説明してほしい。

水質については、木津川本川までを下流域と定義しており、生物については、水辺の国勢調査の調査地点がダム直下の地点であることから下流河川と定義している。
    - b. 青蓮寺ダム、高山ダムについて各々の特徴が記述されていないように見受けられる。具体的には、D0 と水温の関係などダム湖内の水深と関連して現象が異なることから、それらの相違を積極的に記述すべきである。
- (3) 指摘事項の対応について  
フォローアップ委員会に提示する資料の中で、今回の指摘事項に対して対応した内容を資料に取りまとめ、各委員へ報告する。

### 3.3 報告事項

#### 3.3.1. 水環境管理ワークショップの報告

- (1) 事務局からの説明
- (2) 討議内容

#### 3.3.2. 植物の貴重種の移植モニタリング経過報告

- (1) 事務局からの説明  
事務局から行われた本項の説明内容は以下のとおりである。
  - a. 昨年度WGで審議した移植計画【種の採取・保存、土壌の移植、幡種、モニタリング、除草作業時期】に基づき移植を行い、その後のモニタリングを実施した。
  - b. 発芽、成長、開花、結実まで経過を確認できたが、除草作業時期を誤り、種子の落下までの確認ができなかった。
  - c. 同箇所でもう1年モニタリングを継続することとし、来年度、発芽しない場合を想定し、別の地点（東高倉地区）の種を一部採取する。
  - d. モニタリングと堤防の維持管理業務については、関連部署と調整し、今後、適切に対応する。
- (2) 討議内容  
研究会で移植計画を策定し実施していることから、計画の妥当性を評価する上でも、少なくとも、もう1年、モニタリングを行うべきである。

#### 3.3.3. 平成18年度 工事実施箇所

- (1) 事務局からの説明
- (2) 討議内容

#### 3.3.4. 平成18年度 フラッシュ放流について（中間報告）

- (1) 事務局からの説明
- (2) 討議内容

#### 3.3.5. 平成18年度 土砂供給について（中間報告）

- (1) 事務局からの説明
- (2) 討議内容

3 . 4 その他

4 . 閉 会

以 上